

# 格子 QCD 共通コードの超並列 SIMD・GPU クラスタ計算機への実装

## Implementation of Lattice QCD common code to large scale parallel supercomputer with SIMD and GPU architecture

根村英克

大阪大学核物理研究センター

### 1. 研究目的

格子 QCD 共通コードプロジェクトは、**2008** 年より発足した新学術領域研究「素核宇宙融合による計算科学に基づいた重層的物質構造の解明」の中の **A04** 班「分野横断的アルゴリズムと計算機シミュレーション」のプロジェクトのひとつとして開始された。そこで掲げられた目標は、**(a)** 初心者にも使いやすく理解可能であるシンプルな構造を持つこと、**(b)** 修正・追加が簡単にできること、**(c)** 検証や管理が容易であること、**(d)** 並列化や演算加速機などにも対応していること、**(e)** 十分な計算スピード（効率）を持つこと、特に計算機固有の最適化も可能であること、である。これらを同時に実現することを目指し、オブジェクト指向に基づいて **C++** による開発を行っている。**Bridge++** と名付けたコードの最初の公開版を **2012** 年 **7** 月にリリースし、最新版は **2023** 年 **3** 月公開のバージョン **2.0.0** である

[<https://bridge.kek.jp/Lattice-code/>]。

本プロジェクトの大きな柱のひとつは、共同利用可能な大型計算機を具体的なターゲットとして、その性能を引き出せるようにコード開発を継続し、本格的な研究への適用に向けて整備していくことである。従って、本学際共同利用プログラムへの申請は、**(1)** **Wisteria-0** 及び **Cygnus** の **SIMD・GPU** を持つ大型計算機の性能を引き出すコードの開発により、格子 QCD 共通コードの有用性を高めること、**(2)** それに伴って、格子 QCD 共通コードのユーザー数を増やすこと（格子 QCD 計算を主としている研究者だけでなく原子核や宇宙など関連分野の研究者が格子 QCD 計算を理解するための教材的な役割も含める）、**(3)** 格子 QCD 計算の基礎はもとより、アルゴリズムや実践的チューニングのノウハウなどを公開された形で共有することにより、ひいては原子核や宇宙などの関連分野を含めた日本における基礎科学研究体制の層の拡大・充実に資することである。

### 2. 研究成果の内容

2023 年 3 月に最新版 **ver.2.0.0** を公開した。この最新版では、**cpp11** が利用可能な処理系を前提とし、アーキテクチャ固有の実装を含めるために代替コード(**alt-code**)ブランチを追加し、**A64FX** アーキテクチャ用に最適化されたコードを含んでいる。**alt-code** は、任意のデータレイアウトを有効にし、**double** 型と **float** 型のデータ型をサポートしている。標準的な **MPI** に加えて富士通提供の **MPI** 用の **Communicator** を追加している。**NVIDIA HPC SDK C++ 22.7** コンパイラ環境での動作確認を行っており、**GPU** のオフロード実行は将来可能となる予定である。2022 年度の成果報告としては、学術論文（査読付き国際会議プロシーディングズ）1 件、国際会議での講演 1 件、ポスター発表 2 件を行った。

**Bridge++** を使用した研究論文は今年度 9 編追加され、通算 73 編となった。これらの情報は、以下のページ [<https://www.bridge-hpc.org/dokuwiki/>] から参照できる。

### 3. 学際共同利用プログラムが果たした役割と意義

他分野と同様、格子 **QCD** 計算においても、様々なアーキテクチャの大規模並列計算機を活用している。我々が行っている格子 **QCD** 共通コード開発プロジェクトでは、ワークステーションからスーパーコンピュータまで、幅広い環境で利用されることを想定している。様々な環境で動作確認を行い、十分なパフォーマンスを提供するために最適化を行うことが不可欠である。富岳をはじめとする **A64FX** アーキテクチャの **SIMD** 演算機能を持つ **Wisteria-O**、メニーコア演算加速器として **GPU** を搭載した並列計算機 **Cygnus** は、それぞれ特徴のあるアーキテクチャとして、移植性を保ちながら実装する方法の整備と、動作の検証において重要な役割を果たした。

### 4. 今後の展望

今後のエクサスケールでの計算機では、オーダー10,000 の超並列環境で効率よく動作するコードが不可欠である。富岳などと共通する **A64FX** アーキテクチャの **Wisteria-O** の環境で高速に動作するコード実装を引き続き実行したい。**GPU** のようなメニーコア演算加速部をもつヘテロジニアスな計算機に対しては、効率的なコード開発に加え、アルゴリズムの最適化という観点からも研究を進めてゆく予定である。

### 5. 成果発表

#### (1) 学術論文

[1] I. Kanamori, K. Nitadori, H. Matsufuru, “Wilson matrix kernel for lattice QCD on A64FX architecture”, Proceedings of the HPC Asia 2023 Workshops (pp. 55-64). [ <https://doi.org/10.1145/3581576.3581610> ] [ arXiv:2303.08609 [cs.DC] ]

#### (2) 学会発表

[1] I. Kanamori, K. Nitadori, H. Matsufuru, “Wilson matrix kernel for lattice QCD on A64FX architecture”, International Workshop on Arm-based HPC: Practice and Experience (IWAHPCE-2023), the International Conference on

High Performance Computing in Asia-Pacific Region (HPC Asia 2023), Feb 27  
– March 2, 2023, Singapore.

(3) その他 (Poster presentation)

[1] T. Aoyama, I. Kanamori, K. Kanaya, H. Matsufuru, Y. Namekawa, K. Nitadori, “Bridge++ 2.0: Benchmark Result on Supercomputer Fugaku”, Challenges and opportunities in Lattice QCD simulations and related fields, February 15-17 (2023), Kobe, Japan.

[2] T. Aoyama, I. Kanamori, K. Kanaya, H. Matsufuru, Y. Namekawa, K. Nitadori, “Bridge++ 2.0: Benchmark Result on Supercomputer Fugaku”, The 5<sup>th</sup> R-CCS International Symposium, Fugaku and Beyond: Simulation, BigData, and AI in the Exascale Era, February 6-7 (2023), Kobe, Japan.

使用計算機	使用計算機に ○	配分リソース*	
		当初配分	追加配分
Cygnus	○	900	0
Wisteria/BDEC-01	○	28800	0

※配分リソースについてはノード時間積をご記入ください。